

アジアボランティアセンター・編 定価1,524円  
草の根の連帯を求めて  
—21世紀を拓くNGO

※購入を希望される方は、AVC事務局 (<http://avc.or.jp>) まで

アジアボランティアセンター（AVC）は、「途上国のNGOとのネットワークを生かし、草の根レベルの人材育成と相互理解促進のための事業を行うこと。またその事業を通して環境の保全と平和、さらにはアジア・太平洋地域の持続的な発展に寄与すること」を目的に1996年10月、大阪に設立され、本年10月、結成10周年を迎えたが、これを記念して、「草の根の連帯を求めて—21世紀を拓くNGO」が発刊された。

AVCの代表平田哲氏は、長年IMF—JCCの伝統的教育講座・労働リーダーシップコースの副校長として組合リーダーの育成に尽力されてきた。平田代表は、本書発刊の辞の中で、「本書は設立10周年にあわせての出版になりましたが、単なる記念誌ではなく、途上国の貧困に向き合うNGO本来のメッセージを本書に託そうと心がけました」と述べている。

AVCの特徴は、民間の草の根ボランティア拠点として、アジアの語学や文化、歴史の多彩なコースを提供するとともに、アジアの現地NGOとの提携による継続的なボランティア活動、スタディツアーを主催してきた。また、

地震、津波などの被災地に対する救援活動も積極的に展開している。その際の特徴は、必ず現地NGOと連携して、自立支援のための継続的な支援活動、ボランティア活動を行っており、労働組合も多数参加している。「アジアボランティアセンターは、一人ひとりの生命と幸せが最優先される平和で公正な世界を築く



本書は日本のNGOの発展史の道標として、後世に残るものとなるに違いない。西川潤・早稲田大学教授

平和の観点からは正していく草の根の活動にある。(中略) 打ちひしがれた人々を勇気付け、人々の自立の過程に学びつつ、日本とアジア、北と南の関係を直す開発教育の実践にも、大きな実績がある」と述べ、「AVCの10周年記念誌は、日本のNGO発展史の道標として、後世に残るものとなるに違いない」と評している。

本書は、2部構成となっており、1部は、「アジアボランティアセンターの視点」と題して、これまでの10年の活動の歩み、活動別報告が記載されている。第1章「一人ひとりの幸せのために」、

ために、草の根のメッセージを発信し続けます」との設立理念のもと、この10年間、「途上国でなぜ、草の根の人々が貧しくなっていくのか」、その構造的問題を地域の視点から見据えてきた。

早稲田大学の西川潤教授は、発刊に寄せての中で、「阪神・淡路大震災を契機として、元々アジアとの強いつながりを持つ関西の多様なN

GO、NPOのボランティア力がAVCに結集された。AVCは、この10年、日本とアジア、南の世界を結ぶ重要なNGOの一つとして、災害や難民の救援、住民全体の地域開発にユニークな民間活動を続けてきた。「AVCの独自の視点とは、(中略) 不公正で戦禍と災害に苛ま

2部は「21世紀を拓くために」との題名で、今後の更なる発展に向けての提言が掲載されている。第1章「地域からおこす」、第2章「提言—実践活動を踏まえて」、第3章「協同、啓発」という内容から成っている。

西川潤氏も「NGO、ボランティア活動に関心を持つ方々の必携の書としてお勧めしたい」と述べている。(渡辺美知夫・記)